

# 小学部



Ⅰ 小学部3・5年グループの実践事例

(1) 対象児童と段階、年間目標等の設定

児童名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
3年 KA 女子	① 体験したことや聞いたこと、伝えたいことを簡単な言葉で話したり、平仮名で書いたりする。	小2段階、目標イ 思判表 A ウ、B イ
	② 教師と一緒に絵本などを読み、登場するものや動作を思い出して質問に答えたり、大まかな時間の経過などが分かり挿絵を並べ替えたりする。	小2段階、目標イ 思判表 C ア、イ
5年 TY 男子	① 身近で経験したことについて伝えたいことを選んで話したり、短い文で書いたりする。	小3段階、目標イ 知・技ア（ウ） 思判表 B ウ
	② 教師と一緒に絵本などを読み、登場するものや動作などを思い浮かべたり、時間の経過などの大体を捉えたりする。	小2段階、目標イ 思判表 C ア、イ

(2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	「くわしくはなそう」（助詞の使い方、二語文）…KA①、TY① 「書いて伝えよう」（学校の出来事への簡単な言葉による感想と作文や手紙）…KA①、TY① 「指令ゲームをしよう」（二語文の動作化、動作を見ての言語化）…KA①、TY①
生活単元 学習	小2・3年「おいしいピザやさん」（調理、招待状・看板・礼状制作）…KA① 小5・6年「花を育てよう」（写真をとって観察日記）…TY① 小5・6年「おはなしせんぼく」（簡単な文の読み書き、読み聞かせ発表会、振り返り等）…TY①② 小5・6年「まとめの会で発表しよう」（質問に沿って二・三語文で答える）…TY① 学部合同「がんばり発表会」（友達の発表の聞き取り、自分の頑張りの発表）…KA①、TY②
日常生活 の指導	小2・3年「帰りの会」（1日の思い出発表）…KA① 小5・6年「帰りの会」（さいころトークで出来事と気持ちの表現、助詞の使い方）…TY①

(3) 重点事項に基づく国語科の指導の授業づくり・授業実践

① 単元名「ともだちにつたえよう～ホットケーキのつくりかた～」(計9時間)

② 単元目標（全体目標）

ア ホットケーキ作りに必要な材料や動きを表す言葉を知る。(知・技)

イ 写真などを手掛かりに、自分の体験したことを思い出し、短い文で表す。(思判表)

ウ 自分の体験したことをもとに、感想などを話したり、友達の話に関心をもって聞いたりしようとする。(学・人)

③ 単元設定理由

本単元では、「ホットケーキを作る」体験を共有し、それをもとに作り方を短い文で整理し、学部合同で行う「がんばり発表会」で友達に作り方を紹介しながら一緒に調理するという流れで構成した。ホットケーキ作りを通して、材料や調理器具の名称や動作を表す言葉に触れることができ、それらを用いた短い文での表現を促せる題材であると考えた。また、単

元のはじめに調理を体験することで感想や調理時に気を付けたことなどを話したり、友達の話にも関心をもって聞いたりすることにつながると考えた。実感の伴った体験を想起して言葉で表出する力、単語カードを操作して文を構成する力、それを短い文で書く力、友達や身近な教師に自分の言葉で伝えようとする態度の育成を図りたいと考え、本単元を設定した。

④ 単元の個人目標

児童名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
3年 KA 女子	知・技	・ホットケーキ作りに関する材料や動きを表す言葉を正しく覚える。	◎	小2段階 (1) 目標 イ (2) 内容 [知・技] ア(ウ) [思判表] Aウ Bアイ
	思判表	・写真などを手掛かりに、自分の体験したことを思い出し、「〇〇を～する」などの二、三語文で話す。	○	
	学・人	・自分の体験をもとに、感想などを話したり、友達の話の話を聞いたりする。	◎	
5年 TY 男子	知・技	・ホットケーキ作りに関する材料や動きを表す適切な単語カードを選び、短い文を作る。	◎	小3段階 (1) 目標 イ (2) 内容 [知・技] ア(ウ) [思判表] Aイ Bウ
	思判表	・写真などを手掛かりに、自分の体験したことを思い出し、「〇〇を～する」などの二、三語文で話したり、書いたりする。	○	
	学・人	・自分の体験をもとに、調理時に気を付けたことなどを話したり、友達の話に関心をもって聞いたりする。	○	
◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。 ○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。 △：一部達成している。まだ支援を要する。				

⑤ 授業づくりの重点事項の有効性及び単元における児童生徒の変容

ア 具体的に考える場面の設定

(ア) 読み聞かせや動作化等の設定

児童を主役にホットケーキ作りの手順を二語文で示した写真絵本「みんなでホットケーキ」(写真1)の読み聞かせや児童が読む活動を設定した。また、ホットケーキ作りの体験をもとに、模擬の材料や調理器具を用いた動作化(写真2)を取り入れたりした。それらの手立てを通じて、「〇〇を～する」の二語文の習得と語彙の拡充につながった。



写真1 写真絵本の読み聞かせ

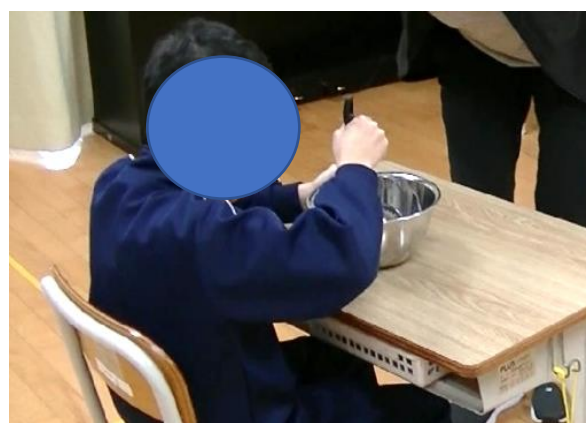


写真2 調理器具等を用いての動作化

また、タブレット型端末で「ロイロノート」を用いて、ホットケーキの材料と動作が書かれた単語カードを動かしながら二語文を作ったり（写真3）、ワークシートに記入したり（写真4）することができた。



写真3 ロイロノートを用いての文作り

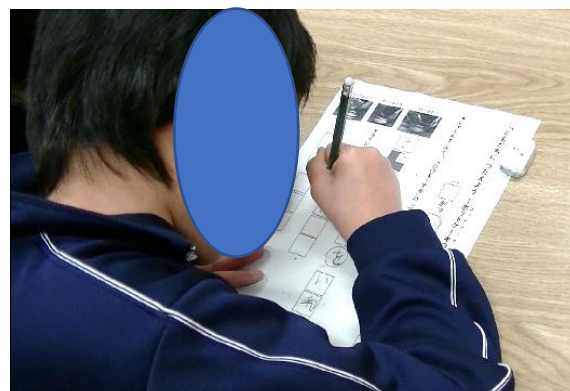


写真4 ワークシートの記入

写真3 ロイロノートを用いての文作り  
 (イ) 興味関心に基づく単元のゴールの設定

興味関心を生かし、がんばり発表会でホットケーキの作り方を友達に伝えるという分かりやすいゴールを設定したことで、児童が意欲や見通しをもって学習に向かうことにつながった。

⑥ 授業者の課題・改善案

ア 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 児童同士の関わり

タブレット型端末で「ロイロノート」を用いた文づくりの場面では、教師が確認し正解かどうかを児童に伝えたが、児童同士で確認したり、評価したりする場面を設定するなど、児童同士が関わりながら学習を深める工夫が必要であった。

イ めあてとまとめの工夫

(ア) めあての焦点化

作り方を二語文で表現することと、体験をもとに気付いたことを話すことを1時間のめあてとしたことで、めあてが大きくなってしまった。授業の山場を設定するためにも、「つくりかた④・⑤・⑥を『なにをどうする』のぶんで、はなしたり、かいたりしよう」など「〇〇を～する」の文型に着目しためあての設定の工夫が必要であった。

(4) 他の学習場面における学んだことの活用

① 指導の形態・学年・対象児童・単元名

生活単元学習・5年TY・「まとめの会で発表しよう」（計8時間）

② 関連する国語科の年間目標

・身近で経験したことについて伝えたいことを選んで話したり、短い文で書いたりする。

(小学部2段階、目標イ、思判表Cア、イ)

③ 指導の手立てと対象児童の様子

ア 「〇〇を～する」の文型での受け答え

地域資源を活用した学習内容を地域の方に報告する「まとめの会」に向けて、これまで自分たちが行ってきた学習を振り返り、スライドを作成した。(写真5) その際、写真に合わせて、「〇〇を～する」の文を考える学習場面を設け



写真5 「〇〇を～する」のスライド

た。写真を提示しながら「何をどうしましたか」と質問することで、「看板を作りました」「看板をつけました」と話すことができた。また、「どんなごみを拾いましたか」の質問には、体験したことを思い出しながら「ペットボトルを拾いました」と答えることができた。

#### イ 三語文での受け答え

スライド作成時に、「どこで何をどうしましたか」の三語文で答える質問を設定した。すぐに言葉が出てこなかったため、質問を二つに分けて質問した。写真に合わせて「何をどうした」には「ごみを拾いました」と、「どこでしましたか」には「河川敷」とそれぞれ答え、「河川敷でごみを拾いました」と三語文を作ることができた。「河川敷」は難しい言葉であるが、繰り返し耳にする言葉であったため覚えていた。

### ④ 授業者の課題・改善案

#### ア 語彙の拡充

日常生活の中で繰り返し使っている言葉であっても、誤って覚えている言葉や意味が分かっていない言葉がある。そのため、言葉一つ一つを大切に、具体例を挙げたり、視覚情報を提示したりして言葉の意味理解を促し、児童自身が正しく使える言葉を増やしていきたい。

#### イ 日常的な言語環境の設定

学習したことを生活の中で活用し、定着が図られるように、日常的に文で話す場面を設けていく必要がある。その際、「何をどうする」「どこで何をどうする」など、話し方のひな型を示すことで分かりやすく文で話すことの手立てになっていくと考える。また、日頃から教師が正しく助詞を使って話す、正確で丁寧な板書をするなど、言語環境を整えていくことも大事なことでありと再認識した。

## 2 小学部2年グループの実践事例

### (1) 対象児童と段階、年間目標等の設定

児童名	年間目標（国語科で目指す資質・能力）	国語科の段階・目標・主な内容
2年 IY 男子	①絵本や写真の内容を大まかに捉え、伝えたいことを思い浮かべて話したり、選んだりして表現する。	小1段階、目標イ 思判表 A アイ B ア
2年 SF 男子	①日常生活でよく使われる単語を平仮名で読んだり、なぞって書いたりする。	小2段階、目標イ 思判表 B アイ

### (2) 教科等横断的な視点に基づく指導計画の作成

各教科等	単元名（指導内容）★イニシャルは児童名、番号①②は育成したい年間目標を示す。
国語	絵本を読もう（平仮名の単語読み IY①・SF①） 聞いて答えよう（簡単な問いに答える、問いを考える IY①・SF①） 書いてみよう（平仮名の読み書き）SF①
生活単元 学習	進級おめでとう（自己紹介カード作成）IY①・SF① おいしいピザ屋さん（招待状作成、礼状作成）IY①・SF①
日常生活 の指導	朝の会（司会）IY① 係の仕事を頑張ろう（朝の会：日付と天気）SF①



(3) 重点事項に基づく国語科の授業づくり・授業実践

① 単元名「絵本を読もう・書いてみよう」(計20時間)

② 単元目標(全体目標)

ア 絵本に登場するものの平仮名を一音ずつ読んだり、視写やなぞり書きをしたりする。

(知・技)

イ 絵本に登場する人物、動物、形などに関する問いかけに応じて、言葉で答えたり、指差ししたりする。(思判表)

ウ 絵本のせりふを話したり、録音したりしながら友達との関わりを楽しむ。(学・人)

③ 単元設定理由

本単元では、絵本「もりのおふろ」「もりのおふとん」を取り上げ、繰り返しのせりふを話したり、登場する動物の名前を平仮名で書いたりする活動を行った。繰り返しのある物語を題材にすることで楽しみながら読む、話す、書く学習ができると考えた。また中心となる平仮名一文字を決め「ロイロノート」のアプリを活用した読みとなぞり書き、プリントでの学習も構成した。一つの文字をじっくりと学ぶ学習を積み重ねることで、自分で平仮名が読み書きできたことの達成感も喚起できると考え、本単元を設定した。

④ 単元の個人目標

児童名	観点	個人目標	評価	国語科の段階・目標・内容
2年 IY 男子	知・技	平仮名で書かれたものの名前を視写したり、なぞったりする。	○	小1段階 目標イ 【思判表】Aアイ BアI
	思判表	絵本の中で興味があるものを指差ししたり、言葉で話したりする。	○	
	学・人	絵本の好きな場面を友達と楽しむ。	◎	
2年 SF 男子	知・技	平仮名の単語を一音ずつ読み、視写やなぞり書きをする。	○	小2段階 目標イ 【思判表】Bア
	思判表	絵本に登場するものの名前や繰り返しの表現を進んで話したりする。	○	
	学・人	友達や教師に絵本に関する問い掛けをしたり、答えたりすることを楽しむ。	△	

◎：完全に達成しており、生活や学習の中で関連する行動が観察される。

○：ほぼ達成しており、生活や学習の中で概ね関連する行動が観察される。

△：一部達成している。まだ支援を要する。

⑤ 授業づくりの重点事項の有効性及び単元における児童生徒の変容

ア 具体的に考える場面の設定と工夫

(ア) 読み書きの力の向上

「ロイロノート」のアプリを活用し、読む力を向上させるための文字を並べ替えて単語を作る学習、書く力を向上させるためのなぞり学習(写真6)を継続して行った。「わ」「に」などを読みながら文字カードを並べ替えたり、苦手だった「ひ」、「る」のなぞり書きや視写もスムーズに書いたりするなど、読み書きの

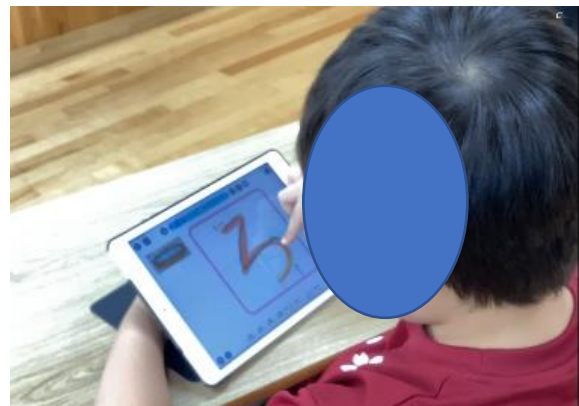


写真6 「ロイロノート」でのなぞり書き

力が向上した。

SFは「へ」の視写ができなかったが、この学習により一人で読み書きできる文字が増えた。(表1)

表1 本単元でSFが学習した平仮名

本単元で学習した平仮名 20文字		
ら た に ひ ろ お り さ も け こ ん ち る す き せ ね ふ れ		
見ないで書ける	時々書けず、視写で書ける	学習前は書けなかった文字
ら た ひ ろ お り さ も こ ん ち る す き	に け せ れ	ら に ひ ろ け ん ち る す き ね れ

### イ めあてとまとめの工夫

#### (ア) 五十音表の活用

学習した平仮名を、五十音表にシールを貼って毎時振り返った。(写真7) 表から文字を探し、シールを貼りながら「達成」「次は『か』をやりたい」などと話していた。シールが増えていくことで、日常生活で拾い読みすることが増えた。

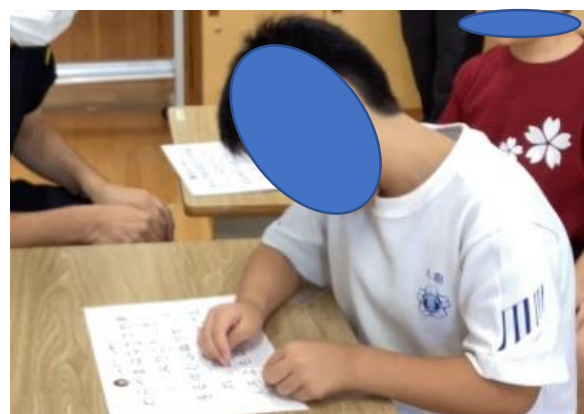


写真7 五十音表にシールを貼り達成を味わう

### ⑥ 授業者の課題・改善案

#### ア 具体的に考える場面の設定と工夫

##### (ア) 「ロイロノート」の録音機能の活用と共有

はじめは教師が絵本を読み聞かせ、児童はそれぞれのタブレット端末で同じページを見て、それぞれの端末で順番にせりふを録音していた。しかし、教師が開いている絵本のページと児童が端末で開いているページが違ったり、録音のタイミングが分かりにくかったりした。

授業研究会を受けて、タブレット端末を1台にしてモニタに出力し、児童が画面を共有しながらせりふを話す流れにした。するとスムーズに順番に話せるようになり、友達が話している様子も見るなど、かかわりも増えた。

#### (4) 他の学習場面における学んだことの活用

##### ① 生活単元学習・2年SF・「おいしいピザ屋さん」(計58時間)

##### ② 関連する国語科の年間目標

・日常生活でよく使われる単語を平仮名で読んだり、なぞって書いたりする。(小2段階、目標イ、思判表Bアイ)

##### ③ 指導の手立てと対象児童の様子

#### ア 積極的な読み書き

板書を教師と一緒に読んだり、一部を書いたりする活動を行うことで、SFはめあて、調理学習の材料などを知ることができ、見通しにつながった。S・Fは「こ」「ね」「る」などの文字や「きじ」などの

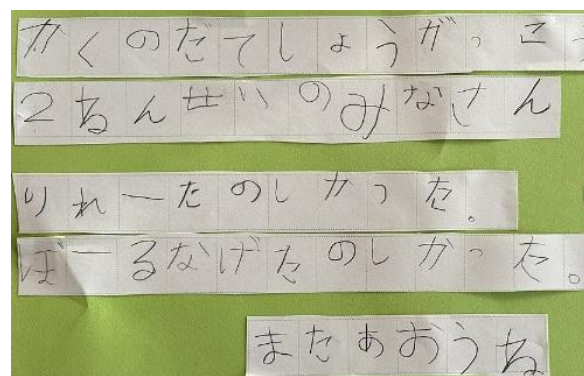


写真8 居住地交流の礼状

単語を一人で読むことができた。

#### イ 文字を書くことへの抵抗感の軽減

ピザの模擬店を開く際の招待状を作成したり、校外学習や体験学習でお世話になった地域の方に礼状（写真8）を書いたりする活動に、進んで取り組むようになった。

#### ④ 授業者の課題・改善案

##### ア 振り返り・評価で文字に触れる機会の設定

「おいしいピザ屋さん」では調理学習が中心の学習に取り組み、児童も意欲的に活動した。まとめは「うまくてきた」「おいしかった」と口頭で感想を話し友達同士が共有し、教師が評価を伝えることが多かった。「とろとろ」「チーズのびた」など児童から感想が出ていたので、それらを児童自身が書くような場面設定と教材の工夫が必要であった。

### 3 まとめ

#### (1) 成果

##### ① ICTの効果的な活用

写真絵本の教材作成と活用（3，5年）、平仮名カードの操作、読み方（2年）、タイピングによる文章作成（5・6年）、絵本の読み聞かせ発表（3年）など、ロイロノート等のアプリの自作教材を活用する場面が多く見られ、興味・関心の向上や分かりやすい学習、文字や語彙の習得と拡充等を意図して、ICTを効果的に活用することができた。児童の実態に合わせたICTの自作教材は、児童が具体的に考えたり、学習の困難さを改善したりするためのツールであり、今後も継続して活用していきたい。

##### ② 単元計画の工夫

「がんばり発表会」（生活単元学習）での絵本の発表（3年）、ホットケーキの作り方の紹介（3・5年）など、対象単元のゴールを分かりやすく設定することで、目標をもって意欲的に学習に取り組むことができた。その他にも、国語科の単元目標の具体化・明確化、本時のめあての焦点化、ICTの効果的な活用等、単元計画を工夫し授業実践・授業改善ができた。

#### (2) 課題

##### ① 聞く力の向上を図る支援

小学部では注意散漫や多動を特性とする児童が多く、集中力を持続させたり、落ち着いて相手の話を聞いたりする等、聞く力の育成が課題である。前掲のICTの効果的な活用や単元計画の工夫だけでなく、発達段階を踏まえた学習規律の共通実践、児童の理解度に合わせた短い言葉での指示や説明及び、立ち位置等の視覚的に分かりやすい環境設定など、「聞く力」を高める環境づくりを重視したい。

##### ② 学びを広げるための情報共有

学級の枠を超えた、個々の学習状況に応じたグループ学習で指導を進めているため、国語科で学んだことを他の学習場面で活用することが課題である。特に、知的障害のある児童にとって文字や文章の読み書き、語彙の拡充や助詞の適切な使用等の習得は時間がかかり、継続的で繰り返しの指導が必要である。そのため、職員間で児童一人一人の国語科の指導内容を共有し、国語科で学んだことを他の学習場面で繰り返し活用して、学習状況を評価したり、指導の手立てを改善したりすることを積み重ねる必要がある。